

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 57 号 (H28.6.6)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 宮崎はじめ西日本が梅雨入りとなりました(正確には梅雨入りした模様でしたね)。集中豪雨が無いことを祈りたいです。

ザンビアでは、依然マラリアの患者さんが多く、薬が足りない状況が認められています。社会としてのシステム、国、州、郡単位の保健局があり、群病院、ヘルスセンター、ヘルスポストはあるのですが、そこに肝心の治療薬等がなく、住民の人々は困っている状況です。

皆様のご支援をいただき、すこしでもマラリア対策等、辺地医療の支援に取り組んでいければと考えています。

今回は、山元香代子先生の現地ザンビアでの活動報告、巡回診療等に同行した上田桃子先生、三好康広先生からの報告をお伝えします。

賛助会費納入のお願いと寄附受領証明書の送付について

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。賛助会費(個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) 及びご寄附(金額は問いません)のご協力をよろしくお願いいたします。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

・web 口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

現地活動報告(山元香代子先生)

みなさまいかがおすごでしょうか。こちらはいいお天気が続いていますが、朝晩寒くて、何枚も重ね着をしています。停電や断水は相変わらずです。

4 月 27 日、ルアノの巡回診療は、患者数 134 名とやや減少するも、マラリア患者は 61 名。前回の診療からの 2 週間コミュニティヘルスワーカーは 364 名の患者を診察し、うち 279 名がマラリア陽性でした。リテタ病院に搬送したやけどの少年が帰宅しており、やけどの痕も残らずきれいに治癒してほっとしました。

5 月 4 日、ムワンタヤの巡回診療は、患者数 182 名。マラリア患者は 35 名。前回の診療からの 1 か月間コミュニティヘルスワーカーは 202 名の患者を診察し、



うち 115 名がマラリア陽性でした。ルアノと比べマラリア陽性率は低めです。診察室はきれいに掃除され、何と妊婦健診室には手作りのベッドが置かれていました。また、井戸の周りにはきちんと柵が作られ、排水口もきれいでした。他の 2 基の井戸も同様にきれいに管理されていました。前回半年前とは大きく改善されていて、うれしい驚きでした。

5 月 11 日、ルアノの巡回診療は、患者数 82 名と大幅に減少。マラリア患者も 36 名と減少するも、前回の診療からの 2 週間コミュニティヘルスワーカーは 392 名の患者を診察し、うち 299 名がマラリア陽性でした。本当にコミュニティヘルスワーカーのがんばりには頭が下がります。JICA シニアボランティアの看護師・三重大医学生 2 名が同行し、カルテ出しなどいろいろと手伝っていただきました。ありがとうございました。ルアノ地区に入る手前の地区で行きと帰りに呼び止められ、1 人の大人と 4 人の子供を診察しました。1 人がマラリアで、2 人に子供は頻呼吸があり肺炎と考え薬を処方しました。

プロジェクトのスタッフの一人、シバンダさんの住むモンボン地区でマラリア患者が多発し、何人か亡くなっているとのことで、チペンビヘルスセンターの許可をもらい、マラリア検査キットや抗マラリア薬などをコミュニティヘルスワーカーに提供することしました。5 月 10 日までに 222 名中 175 名がマラリア陽性で、治療を受けています。マラリアが下火になるまでは支援しようと考えています。

4 月 29 日には、ニャンカンガで地域ボランティアとの話し合いをもちましたが、出席者、特に男性の出席が少なく、唖然としました。ニャンカンガはいっしょに仕事をするのになかなか協力が得られず、むずかしい所です。こちらの要望を伝えましたが、とにかく忍耐強く話し合っていかななくてはいけないと肝に銘じました。井戸の近くに畑を作っている人がいて、村長と共に話し合いに出かけました。肥料が水を汚染する可能性があるのも、畑を移動してくれと説明したところ納得してもらえたのでほっとしました。次回診療時、再度水質検査をする予定です。

5 月 18 日、ニャンカンガの巡回診療は、患者数 163 名とやや減少するも、マラリア患者は 93 名。前回の診療からの 1 か月間コミュニティヘルスワーカーは 429 名の患者を診察し、うち 389 名がマラリア陽性でした。マラリアがまだまだ多く、コミュニティヘルスワーカーがとてがんばってくれています。診察室は掃除されていましたが、前回届けたセメントは床に塗られておらず、砂ぼこりがひどく、窓枠・ドアも設置されていませんでした。カルテの整理のために届けた番号のラベルは廃棄されていて、全く整理されていません。なかなか思うようにはいきません。でも少なくとも掃除がしてあり、何人かのボランティアが我々の到着を待っていてくれたので、それでよしとしようと思いました。

5 月 13 日、20 日、ニャンカンガとムワンタヤでそれぞれドラマグープによる啓発活動を実施しました。しかし、特にニャンカンガでは連絡がうまくいってなかったようで、子供も含めて 50 名足らずの出席者で、がっかりしました。

今年はマラリア患者がとても多いのですが、チペンビヘルスセンターやニャンカンガから約 20km 先のムワプラヘルスポストでは、抗マラリア薬が全くなく、プロジェクトから届けています。5 月 21 日、運転手のテンボさんがチペンビヘルスセンターに届けた時には、多くの患者が薬を待っていたそうです。ムレタさんの住むルカタ地区の近くの 2 つのヘルスセンターでも抗マラリア薬が全くなく、ヘルスセンターからムレタさんのヘルスポストに患者紹介がある状況です。郡保健局はいったいどういう対応をし



ルアノ移動中に車が故障



井戸の近くに作られた畑

ているのか疑問です。ほんとうに患者さんが死んでしまいます。みなさまからの寄付で購入した抗マラリア薬がとても多くの命を救っています。ほんとうにありがとうございます。

忙しい毎日です。とにかくできることをきちんとやっけていこうと思います。

みなさま、どうぞお元気でお過ごし下さい。

ザンビア研修報告

◎ザンビアの僻地医療を支援する会活動に参加させていただいて(三重大学病院上田桃子先生から)

【内容】モバイル診療、モバイル診療までの準備(パッキング・買い付け)、私立病院・ヘルスセンターの見学、村での健康増進キャンペーン

【感想】今回山元先生のご厚意で、大変多くのことを経験する機会をいただきました。

ザンビアは医者数が少なく、それに伴い医療機関の数も大変少ないです。また、数少ない医療機関は都市部に限られており、農村部まで医療が行き届いていないのが現状です。ザンビアでは子供が多く亡くなり、そのほとんどはマラリアや下痢、HIV(エイズウイルス感染症)、呼吸器感染症です。現代の医療水準で十分治療することが可能なものばかりです。医療が簡単に得られず、救える命が多く失われています。

先生のなされている医療は、そういった発展途上国では大変重要になってくるプライマリヘルスケアに準じたものでした。先生は身一つで縁もゆかりもない遠いアフリカの地で、何も無いところから、活動を始められたのだと思います。現地の医療や経済状況について調べ、どういった活動にするのかを吟味し、人を集め教育し、物資を集めて、実際に活動を行う。活動の後には評価をし、活動をより良いものへと改善し、継続していく。

並大抵のことではありません。きっとたくさんの苦勞と努力があったのだと思います。同行させていただいた活動すべてに、それを感じるものがありました。

日本人の感覚では、医療を受ける患者側であれば、先生にただただ感謝するばかりだと思います。しかし、ザンビアの人々はお礼の一つもなく、文句を言ったりする人もいました。ザンビアのような発展途上国では多くの国や団体が支援をおこなってきました。自分の国の問題であるのにも関わらず、他国の人にやってもらうこと・与えてもらうことが当たり前ようになってしまい、このような状態になっているのだと思います。また、国民性もあり、与えられた仕事を真剣に一つ一つをこなすという感覚がない人も多くいます。本当に日本人は真面目な器質を持っているのだと感じました。

こういった国民性の違いや価値観の違いをどこまで、改善する必要がある、どのように受け入れていくのかは、国際協力をする上で大変重要です。これをなおざりにすると、活動自体が本当に支援を受ける国の人々にとって、必要で幸せなのかが置き去りになり、ただの自己満足になってしまいます。そういったことと現実とたくさんのジレンマの中で、先生は活動を行い、奮闘されているのだと思います。

今回の研修で感じたのは、そのような状況でも常に諦めずにいることが、活動を継続し、成果をだすには必要なのだと思いました。日本にいて何不自由なく生活している私達の想像だけでは決してわからない、一筋縄ではいかない多くのことを一つ一つ乗り越えていく。先生の姿をみて、一緒に活動しているスタッフをみて、本当に素晴らしいと思いましたし、将来自分が国際医療携わるときにこんな風になれたらいいと思います。



山元先生の診察



現地の人々

今回は、先生やスタッフの方のおかげで充実した研修を送ることができました。本当にありがとうございました。

◎ルアノでのモバイルクリニックに参加して（医師 三好康広先生から）

まずモバイルクリニックへ参加させていただいた山元先生にとっても感謝しています。

私はこれからザンビアの南部のジンバの病院で、2年間地域医療に従事させていただく予定ですが、長年に渡り、モバイルクリニックという形で、ザンビアの地域医療に貢献されている、山元先生の活動に興味を持ち、参加させていただくことになりました。

実際に参加してみることで、ザンビアの辺境の地での医療ニーズ、モバイルクリニックの意義を身にしみて感じました。

悪路とは聞いていましたが、首都のルサカから5時間、その行程のほとんどが全く舗装・整備されていないでこぼこ道をランドクルーザーに揺られながら進むことで、その辺境ぶりを実感しました。途中で立ち寄った最寄りのヘルスポストはルアノから3-4時間かかるところにあり、出産を終えたルアノからきた褥婦を車に乗せて行くことになりました。出産が近くなると、ヘルスポストに移ることになるというのですが、定期的な交通手段がないため、収穫したトウモロコシを移送する軽トラックに乗って行くなどと伺いました。

限られた医療資源の中、できることは多くはありませんが、その中でマラリアの診断、治療が果たしている役割は、甚大でると感じました。今回実際マラリア患者さんの多さを肌で感じました。モバイルクリニックに向かう途中、具合の悪い児童がいるとのことで立ち寄ると、迅速診断キットですぐにマラリアと診断し、治療薬を配布する、という現場をみることができました。治療しなければ、死に至ることもある病気であるゆえ、モバイルクリニックの存在により、マラリアの重症化、致死率が著減しているものと推測されます。月2回のモバイルクリニック以外の時にも現地のボランティアが精力的にマラリアの診断、治療を行っているということで、頭が下がります。

日本で産婦人科医として3年間勉強してきましたが、モバイルクリニックでの妊婦検診は興味深いものでした。既にリタイアされている現地の助産師が担当していました。日本での定期妊婦検は14回ありますが、ここではわずか4回ほど。日本での妊婦検診ではかかせないエコー検査は行えませんし、血液検査や尿検査も行えません。普段エコーに依存した診療をしている自分にとっては、無力さを実感せざるをえませんでした。簡単な妊婦検診ではありますが、その意義は十分あるものと感じました。妊娠初期に妊婦、パートナーともHIV検査を受けます。全妊婦に鉄剤、葉酸の配布を行い、WHOの推奨通りに中期、後期にはマラリア予防薬が配布されます。エコーがないため、触診で単体か多胎か、胎位を確認し、トラウベ聴診器で胎児心拍を確認しますが、これは慣れないとかなり難しいものです。もちろんエコーがないと胎盤・臍帯の位置や羊水量は把握できませんし、血液検査もないため妊娠糖尿病を診断・治療することはできません。本来は帝王切開が可能な施設で分娩すべき、ハイリスク妊娠を把握するのは困難になります。

モバイルクリニックは限られた資源で焦点を絞り、最大限の効果を発揮しているものと思います。

ここで得たものを、今後の医師としての歩みに生かしていきたいと思います。

どうもありがとうございました。

以上

どうぞ今後ともご支援のほどよろしく申し上げます